

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第1号について

本県のオリーブにおいて、オリーブ立枯病（仮称）（*Ralstonia solanacearum*）の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成30年5月24日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 オリーブ立枯病（仮称）

Ralstonia solanacearum (Smith 1896) Yabuuchi, Kosako, Yano, Hotta & Nishiuchi 1996

2 作物名 オリーブ

3 発生状況および病原菌の同定

(1) 発生確認 平成29年9月

(2) 発生状況

日置市の2か所のオリーブ栽培園で萎凋・葉枯れ症状（図1 A, B）や、枝や幹の導管周辺部の変色（図1 C）が認められた。また、枝や幹の変色部から細菌と考えられる菌泥の漏出（図1D）が見られ、各部位から細菌が分離された。

(3) 菌の同定

得られた分離株をトマト、ナス、オリーブに接種した結果、萎凋・枯死などの症状が認められた（図1 E）。さらに、細菌学的性質の調査および遺伝子解析から分離株は*Ralstonia solanacearum* phylotype I（アジア型）の2系統（biovar 3 sequevar 34 と biovar 4 sequevar 15）と同定された（農業開発総合センター、国立研究開発法人 農業・食品産業技術研究機構 農業環境変動研究センター）。

4 病原菌の特徴

(1) 病原菌の種類

本病原菌は多くの作物に青枯病を引き起こす事が知られている多犯性・土壌伝染性の植物病原細菌である。

(2) 発生分布

本病原菌によるオリーブの病害は、国内では香川県、海外では中国等で発生が確認されている。

(3) 菌株の特徴

biovar 3 sequevar 34 主にタバコ、ナス、トマト等ナス科作物に病原性があり、過去に鹿児島県内でタバコ等から分離されている。

biovar 4 sequevar 15 国内で普遍的に存在し、タバコ以外のナス科作物等に病原性がある。

5 防除対策

本病原菌を土壌から完全に除去することは困難であり、登録農薬もないため、以下のような耕種的防除に努める。

- (1) 本病が発生した時は、速やかに抜根してほ場の外に持ち出し、焼却等の処分を行うとともに同じ場所に植え付けない。また、園地へ出入りする時は服、帽子、靴に付いた植物残渣や土を十分落とし、靴、手袋などの消毒を行う。
- (2) 管理作業での感染を防止するため、汁液が付着するせん定バサミやノコギリなどの用具の消毒（70%エタノールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液）を行う。
- (3) 新植時は既発生地からの苗の導入に注意するとともに、過去にナス科作物等で青枯病が発生したほ場の利用は避ける。

6 参考文献等

- (1) 堀田光生・土屋健一(2012) 青枯病菌 *Ralstonia solanacearum* 微生物遺伝資源利用マニュアル (12) 改訂第2版
- (2) 香川県農業試験場病害虫防除所(2018) 平成29年度病害虫発生予察特殊報第2号の発表について



図1 オリーブに発生した症状と分離した菌株を接種したトマトの症状
A, B : ほ場でのオリーブの萎凋・葉枯れ症状, C : オリーブ茎の維管束の褐変,
D : オリーブ茎からの細菌泥の漏出, E : 接種したトマトの症状 (左 : 未接種, 右 : 接種)